

貴重な鉱物資源の採掘・活用・回収・再利用のサイクルを、 グループをあげて構築し、 社会の発展と環境保全に貢献してまいります。

三井金属グループは、鉱物という貴重な資源を地球からいただき、培った製錬・加工技術で様々な製品に変え、豊かな社会の創造に寄与することを重要な使命としております。この事業活動を将来にわたって継続していくために、また、事業活動を通して地球環境の保全に貢献していくために、グループでは地下資源を有効に使い切ることはもちろん、都市鉱山という新たな鉱脈に目を向け、資源の再利用を促進しています。

都市鉱山を活用したリサイクルは、今、三井金属グループの最も重要な事業の一つに成長いたしました。バッテリーやブラウン管からの鉛の回収。パソコン等の廃電子基板や携帯電話からの銅や貴金属の回収。亜鉛、鉛、銅、金、銀、白金などの金属だけでなくレアメタルの回収にも力を入れています。また、ゴミ焼却場の集塵ダストから金属を回収するなど、貴重な資源を徹底して回収できるよう技術の開発・蓄積も進めています。

鉱山および都市鉱山から取り出したこれら貴重な有用金属を活用しながら、三井金属グループはその技術力を生かし、環境負荷低減に貢献する製品開発にも注力しております。電気自動車やパソコンのバッテリーに使用されるリチウムイオン電池の正極材となるマンガン酸リチウム。ハイブリッド自動車用ニッケル水素電池に欠かせない水素吸蔵合金。オートバイや自動車の排気ガスを清浄化する触媒もその一例。また、光学材料向け透明分散液や接着層付極薄電解銅箔Multi Foil Gなど次世代製品の開発も進んでおります。

本誌でもご紹介していますが、三井金属資源開発が島根県において採掘しているゼオライト(商品名イワミライト)も将来性豊かな鉱物資源です。ゼオライトは、すでに保肥材や調湿

材として活用されていますが、まだまだ豊かな可能性を持ち、近年では、その放射能除染効果に期待が高まっています。三井金属グループでは、この領域でも社会にお役に立ちたいと、他の研究機関や企業とも力を合わせ取り組んでおります。

これら三井金属グループの環境活動をご紹介するのが、当環境報告書です。ともすれば難解になりやすい環境報告書ですが、小中学生の皆様にも興味を持っていただき、親子で読んでいただけるよう、この度誌面を一新いたしました。三井金属グループがどんな姿勢で事業に取り組み、どのような環境活動に取り組んでいるのか、ご理解いただく一助となれば幸いです。



代表取締役社長
仙田 貞雄
SADAO SENDAI

経営理念

創造と前進を旨とし、 価値ある商品によって社会に貢献し、 社業の永続的発展成長を期す。

環境基本方針

[理念]

地球環境の保全を、経営上の最重要課題の一つとして位置付け、
事業活動のあらゆる面で環境保全に配慮して行動する。

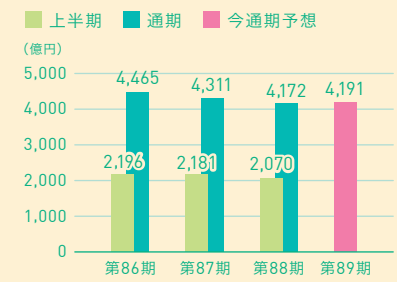
[方針]

- 1 環境関係法規等を遵守するとともに、必要な自主基準を設け、環境汚染の予防、環境負荷低減に努める。
- 2 環境保全活動を推進するため、三井金属グループの各所社において、組織および体制の整備をはかる。
- 3 地球温暖化防止、廃棄物の削減、環境汚染物質の排出量削減について、目標を定めて取り組む。
- 4 環境に配慮した技術、材料および商品の開発を積極的に推進する。
- 5 定期的な監査を実施し、環境管理システムの継続的な改善をはかる。
- 6 三井金属グループで働くすべての人々に対し、環境に関する教育・啓蒙等を通じて、環境保全の重要性を認識させ、意識の向上をはかる。

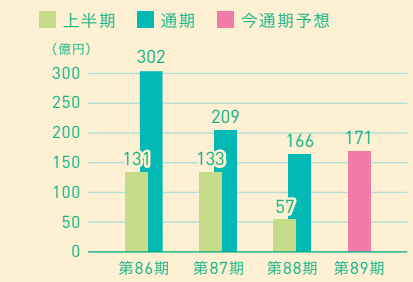
この基本方針は、三井金属グループの全世界の各所社に適用する。
2010年1月1日 三井金属鉱業株式会社
代表取締役社長 仙田 貞雄

第88期決算

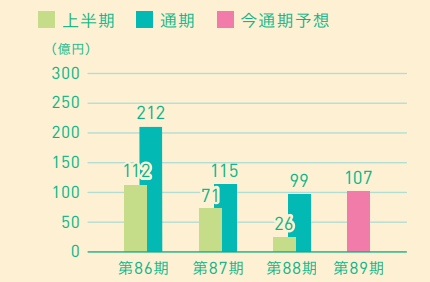
売上高 / 4,172億円



営業利益 / 166億円



当期純利益 / 99億円



未来予測につきましては、平成25年8月7日現在において入手可能な情報に基づき作成したもので、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。